

調布市の特徴

分野	強み (さらに活かしたいこと)	弱み (改善した方がいいこと)
商工業振興	商店街への各種補助金の充実。 (商店街チャレンジ戦略支援事業補助金、産業振興補助金等)	大型の空き地がなく、住宅地が多く所在するため、工業及び製造業が開業・営業しづらい。
	調布CM、まちゼミ、イオンシネマシアタス調布と連携した映画チケット半券サービス事業などの特徴的な事業の実施。	商店街などで小売業の路面店が少なくなっている。
	調布駅前から盛り上げる会(※)の月1度の開催による、中心市街地活性化を目的とした官民連携。 (※) 商工会を事務局とし、調布駅周辺の5つの商店会、トリエ京王調布、イオンシネマシアタス調布、調布PARCO、調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市が参画する会議体	商店会数の減少。役員の高齢化、成り手不足(事業承継)。
		個人店の知名度向上が課題である一方で、調布ならではのお店が少ない。
観光振興	深大寺をはじめ、神代植物公園、FC東京のホームスタジアムである味の素スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザなど、知名度のある観光地がある。	特定地域(深大寺⇄調布駅周辺、イベント実施場所のみ)の観光が多く、市内回遊への仕掛けづくりが課題。
	名誉市民・水木しげる氏が50年以上住み、様々な作品を生み出した特性を生かし、「水木マンガの生まれた街調布」掲げ、(株)水木プロダクションや東映アニメーション(株)などと連携しながら、調布ならではの取組を行っている。	観光資源は数多く存在するが、器用貧乏のような状況になり、効果的・効率的な観光施策に課題がある。
	映画・映像関連企業が約40社立地する特性を生かし、「映画のまち調布」を掲げ、映画の作り手にスポットを当てた「映画のまち調布シネマフェスティバル」の開催や、映画・映像の撮影場所の支援(ロケ支援)を通じた調布のPRなど、調布ならではの取組を行っている。	知名度が高い名産物(お土産)が不足。
	調布花火の開催	調布市らしさや統一感を持つ場所が少ない。
	近藤勇の生誕の地	
	無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の環境整備	
事業者支援	中小企業診断士等が常駐。事業者の相談体制が充実。	産業労働支援センターの認知度がまだまだであると感じる。
	コロナ禍の消費喚起策(キャッシュレス決済ポイント還元事業)の実施により、デジタル化(キャッシュレス決済)への関心が高まっている。	創業チャレンジ支援事業や見本市等支援事業などの利用希望に対して、利用率が不足している。
	創業相談、セミナー等の充実(創活塾や特定創業等支援事業)。	販路開拓のための取組(異業種交流会など)が不十分、商工会と協力して実施できる事業など改善する余地はある。
	中小企業融資あっせん制度の充実。(物価高騰・コロナ口) ※利子補給や信用保証料の補助など	事業承継に関して、事業者が抱える課題(資金面や相続など)が様々で、複雑なため、十分な支援ができていないと言い難い。(事業承継・引継ぎ支援センターとの連携は有り)
	商工会と連携した事業の実施。 (商品券事業、物価高騰支援事業(電気・ガス・燃料代の一部補助)等)	人手不足や人材不足を解消するための効果的な支援策の考案が難しい。
雇用・就労の支援	ハローワーク府中との共同事業(国領しごと情報広場)	勤労者互助会の事業者数及び会員数がわずかに減少してきている。
	マザーズコーナーや、ちょうふ若者サポートステーション事業など、母親や若者に対する就労支援の充実	国領しごと情報広場全体の就業者における市内在住者の割合がわずかに減少してきている。(全体の就職件数が増えたことによる)
	各関係機関と連携し、高齢者等の就労支援を含めた就職面接会や労働セミナー等の実施	高齢者、障害者、若者を支援する庁内関係部署との連携をさらに強化する必要があると感じている。